

栄養講座開催のお知らせ **フコから学ぶワンランク上の盛付け方～朝食～**

市内で採れたおいしい野菜をお店で使っているシェフが、食欲をそそる朝ごはんの盛付け方を披露します。
1日で最も大事な朝ごはん、エネルギーチャージしませんか。

市役所健康づくり課
☎ 055-949-6820

とき／8月26日(水) 9:30～13:00
ところ／葦山福祉・保健センター
対象・定員／20歳以上の市民20人(応募多数の場合は新規受講者を優先のうえ抽選)
参加費／100円
申込締切／8月14日(金)

講師／オープンガーデンカフェ Vivra Vivre(ビブラビブレ) 増井靖丈シェフ
内容／増井シェフより「盛付けの工夫」、保健師より「ちょっぴりスリムでちょっぴりしあわせ」の講話
メニュー／スペイン風オムレツ、トマトのマリネ、かぼちゃのサラダ、野菜のスープ、ごはん(栄養士による調理実習)

図書館だより

今月のおすすめ ～じょうずに泳ぐには～

なまず、かえる、ペンギン、とうちゃん…あなたなら誰に泳ぎを教わりたいですか？



『たろうめいじんのたからもの』
こいでやすこ(作)／福音館書店
泳げないきつねのきっこ。泳ぎを習おうと、どろんこ池で“たろうめいじん”に呼びかけると、泥の中から大きななまずが踊り出ました。夏の絵本です。【中央】



『ふとんかいたすいよく』
山下明生(作), 渡辺洋二(絵)／あかね書房
中耳炎のカズくん、とうちゃんが家で泳ぎを教えます。一面に青いふとんを敷けば、そこは海! 想像広がる幼年童話です。【中央・葦山】

『ぐりとぐらのかいたすいよく』 なかがわりえことやまわきゆりこ(作)／福音館書店【全館】
いぬかき、くじらおよぎ、くらげおよぎ…教えてくれるのはうみぼうず。
『ペンギンおよぎすいすい』 山下明生(作), しまだしほ(絵)／理論社【中央・葦山】
南極のひよっこペンギンたちと一緒に、泳げないアヤカは海の中へ。
『おさるがおよぐ』 いたうひろし(作・絵)／講談社【葦山】
カエルに泳ぎを教わったおさるは海を泳いでいきます。

■本の住所③請求記号

背ラベルの数字は「日本十進分類法」による分類で、多くの図書館で使われています。ローマ字は、Fは小説、Eは絵本、Sは郷土資料などの意味があります。カタカナは主に著者の頭文字です。これらの数字と文字の組み合わせで1冊ごとに請求記号がつけられています。



図書館カレンダー
モバイル版QRコード



図書館ホームページ <http://www.izunokuni.library-town.com/> 中央図書館 ☎ 0558-76-5566

8月の休館日
中央図書館 3日(月)、10日(月)、17日(月)、24日(月)、28日(金)、31日(月)
葦山図書館 5日(水)、12日(水)、19日(水)、26日(水)、28日(金)
長岡図書館 3日(月)、10日(月)、17日(月)、24日(月)、28日(金)、31日(月)

文化財通信

その122

葦山反射炉で作られた南部産銃鉄製カノン砲 (その1)

市役所文化振興課
☎ 055-948-1428

葦山反射炉が、幕府直営の大砲製造工場として操業していたのは、安政4年(1857)から元治元年(1864)の、およそ7年間です。当時の記録によると、葦山反射炉では、安政4年から5年にかけて3門、万延元年(1860)に1門、計4門の鉄製18ポンドカノン砲が製造されています。

最初の3門は、葦山反射炉の稼働当初に製造されたもので、材料は石見(現島根県)産の銃鉄でした。このうち、1番目と3番目のカノン砲は試射まで成功した記録があり、一定の完成を見えています。しかし、その後2年間、葦山反射炉で銃鉄砲の製造は行われませんでした。

理由は、石見産銃鉄の質にありま

この問題を克服するためには、銃鉄ではなく「岩鉄」、つまり鉄鉱石を原料とした銃鉄を用いる必要がありました。そのことにいち早く着目し、岩鉄から高炉によって銃鉄を作り出すことに成功したのが、「日本近代製鉄の父」とも言われる大島高任です。南部藩出身の大島は、水戸藩に招聘されて、薩摩藩の竹下清右衛門、三春藩の熊田嘉門とともに水戸反射炉を築造した技術者。彼が手がけた橋野高炉(「橋野鉄鉱山・高炉跡」(岩手県釜石市))は、「明治日本の産業革命遺産」の構成資産として、葦山反射炉とともに世界文化遺産に登録されています。

橋野高炉は、水戸反射炉に銃鉄を供給することを目的に、南部藩が築造したもので、安政4年12月、日本初の連続出銃に成功しています。安政5年以降、銃鉄大砲の製造が停滞していた葦山反射炉でも、石見産の銃鉄に替えて、この南部産の銃鉄を用いることが検討され始めました。



反射炉御用留年々用(公益財団法人江川文庫蔵)

益財団法人江川文庫蔵)によれば、安政5年5月には、幕府勘定所に対して「南部美濃守領内産銃御買上之儀申上候書付」を提出して、質のよい南部産銃鉄をまず1、500貫目(約5・6t)ほど購入して、18ポンドカノン砲1門を試射することを提案しています。これを幕府が承認し、4番目の銃鉄砲が製造されることになったのです。(その2に続く)